

令和8年度 通信教育実施計画

松陰高等学校（本校／各学習センター）

教科	科目	単位数	履修上の留意点		
芸術	美術Ⅱ	2	選択科目		
指導 目 標	(1)美術の幅広い創造活動の豊かな美的体験によって、生涯にわたり美術を愛好する心情を育て、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。 (2)表現の活動では、主題生成の能力、創造的に構想する能力、表現しながらさらに構想を確かめ練り直す能力、材料や用具の特性を生かし創意工夫して表す技能などを育成する。 (3)鑑賞の活動では、美術作品や文化財等に映し出された美や創造のすばらしさ、人々の生活や願いなどを感じ取るとともに、生活を心豊かにする美術の働きや美術文化を理解したりする能力などを育成する				
	教科書		副教材等	添削指導	面接指導
	高校生の美術2			6回	8単位時間
	多様なメディアを利用した学習による 面接指導時間数の減免実施の有無	☐ 実施している ☒ 実施していない	多様なメディアを利用した学習 による減免後の面接指導時間数		該当なし
添削指導（レポート）					
回	学習内容			対応する 面接指導の回	提出期限
1	絵画の役割の変化、表現としての意義やよさなどを感じ取り鑑賞の創造的な諸活動に、主体的に取り組む学習する。作品の描かれた年代と主題などを基に、絵画の役割や発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深める。			1	5月13日
2	質感の表現の造形的なよさや美しさを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて学ぶ。模写という深い観察を伴う制作プロセスを経て、作家がどこに視線を誘導したかったのか、どのような空気感を演出したかったのかという「画家の意図」を読み解く、専門的かつ批評的な鑑賞眼を養う。			2	6月6日
3	伝達の目的や条件などを基に、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深め、学ぶ。効果的に伝えるための表現の工夫や調和を学習する。			3.4	7月4日
4	行きや空間などの効果を考えたことなどから主題を生成し、個性豊かで創造的な表現の構想を学ぶ。風景に見られる大気や光、奥行きや空間などの効果、全体のイメージや作風などで捉えることを理解し学習する。			5.6	10月21日
5	人物の性格や人柄、印象などを基に、動きやしぐさ、表情、色彩や構図などの効果を考えて主題を生成し、個性豊かで創造的な表現を学ぶ。大気や光、奥行きや空間などの効果、全体のイメージや作風などを学ぶ。			7	11月11日
6	デザインの形や色彩の効果などに着目し、使う人の行為や心情などを捉える。日常的に使用している「文字」の造形的な美しさや機能性を再発見し、言葉の意味や感情を視覚的に表現する方法を学ぶ。			8	12月5日
面接指導(スクーリング)					
回	単位時間	学習内容		実施場所	実施日
1		バロック、ポスト印象派、キュビズムの作例を用い、造形要素に基づいて「好き」の理由を整理・発表するプロセスを学び、表現する。		各学習センター	5月
2		【実技】フェルメールの傑作の模写を通じて、17世紀バロック絵画の高度な光の表現、色彩の調和、および絵画的な空気感を客観的に分析し、自らの表現技術として吸収することを学習する。		各学習センター	6月
3		【実技】不要な情報をあえて削ぎ落とす「単純化（デフォルメ）」や、対象の特徴を強調する表現が、一瞬で情報を伝えるために有効であることを理解する。イラストと文字の配置関係や、視線を誘導する構図の規則を学ぶ。		各学習センター	7月
4		【実技】不要な情報をあえて削ぎ落とす「単純化（デフォルメ）」や、対象の特徴を強調する表現が、一瞬で情報を伝えるために有効であることを理解する。イラストと文字の配置関係や、視線を誘導する構図の規則を学ぶ。		各学習センター	7月
5		【実技】それぞれの「前後関係」「接地位置」「固有色の違い」を客観的に観察する。床という共通の平面上に各モチーフがどのように配置されているかを正しく計測し、モチーフの間に流れる「空気感」を画面上に構築する手法を学習する。		各学習センター	10月
6		【実技】それぞれの「前後関係」「接地位置」「固有色の違い」を客観的に観察する。床という共通の平面上に各モチーフがどのように配置されているかを正しく計測し、モチーフの間に流れる「空気感」を画面上に構築する手法を学習する。		各学習センター	10月
7		【実技】極めて短い制限時間の中でモデルを観察し、描くことで、細部にとらわれないマクロな視点と、迷いのない力強い線描技術を学習する。		各学習センター	12月
8		【実技】情報を正確に伝えるレタリングの技術に留まらず、言葉が持つニュアンス（例：「重い」「流れる」「緊張感」など）を、文字の形、テクスチャ、構成の工夫によって直感的に伝える手法を習得する。		各学習センター	1月
多様なメディアを利用した学習					
計画段階では実施予定なし					
試験					
回数	試験範囲			実施場所	実施日
1	実技評価を試験に代わる方法として位置付ける。			各学習センター	
2	実技評価を試験に代わる方法として位置付ける。			各学習センター	
学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定に当たっての基準					
添削指導、面接指導、実技の結果を総合的に評価する。					
所定の添削課題の提出、面接指導の受講、実技評価を満たし、学習成果が認められる場合に単位を認定する。					
その他					
各学習センターでは、本校の通信教育実施計画及び指示に従い実施する。施設状況や生徒の状況等に応じて日程・実施方法を調整する場合も、本校の承認又は指示のもと、指導内容・評価・単位認定基準に変更が生じない範囲で対応する。					